



◇第58回 日本生物工学会大会（2006）後記◇

大会実行委員長 関 達治

日本生物工学会の第58回大会を、平成18年9月11日（月）から13日（水）の日程で、大阪大学豊中キャンパスにて開催いたしました。多数の会員のご参加と、関連企業の皆さんのご支援、ならびに田谷関西支部長はじめ実行委員の皆様のご協力を得て、無事に終了することができました。会場を拝借した大阪大学の関係者も含め、まずは皆様に厚く御礼申し上げます。ここに大会の開催につきまして、以下の通りご報告いたします。

大阪では平成14年度に80周年記念大会（大阪国際会議場）が開催されたが、関西支部が担当する大会としては、平成11年度の関西大学での大会以来7年ぶりであった。厳しい残暑が心配されたが、期間中は曇り空から小雨まじりの比較的しのぎやすい天候となった。また、主会場の大学教育実践センターの一部講義棟の改修工事が計画されており「騒音」が問題となったが、大学当局の配慮で工期の調整をお願いし、ご迷惑をおかけせずすんだ。

講演件数は、一般講演565件、シンポジウム18テーマ/102件、招待講演3件、受賞講演6件、合わせて676件であった。一方、有料参加者数は、正会員810名、学生会員347名、非会員255名、合計で1412名となり、昨年のつくば大会に続き参加者1400名を超える大会となった。特に本年度は、正会員と非会員の総参加者数が例年に比べ増えており、これは、大阪という地の利、夏休み期間中の開催といった条件もさることながら、本会の研究アクティビティとその動向に対する関心の高さによるものと考えられた。展示会には出展協力企業27社とJBBの電子投稿・査読システムのブースが会場のごく近くに配置され、最新の理化学機器・試薬、出版物などに関する情報交換の場となった。また、特別企画の産学交流ランチョンセミナーでは3社から、開発製品の紹介と詳細な説明がなされた。

大会1日目の午前・午後（9：24～18：12）および2日目の前半（9：00～13：20）は、一般講演、受賞講演（江田賞、斎藤賞、照井賞）、招待講演3件、シンポジウム9テーマが行われた。また、1日目18：00から生物工学若手研究者の集い（若手会）総会・交流会が、豊中キャンパス内のレストラン・宙で行われ、参加人数90名を越す盛会となった。

2日目16：00から会場を千里阪急ホテルに移し、平成18年度授賞式がとり行われた。五十嵐泰夫会長の挨拶、受賞選考経過報告に続き、生物工学賞（新名惇彦氏：植物の生物工学的利用のための基盤技術開発とその応用）、技術賞（井原慶児氏ら：鮭皮コラーゲンのバイオマテリアル化技術の開発と商品化）、江田賞（浅野忠男氏：清酒酵母の有機酸生成に関する研究）、斎藤賞（前田 勇氏：細菌ポリエステルおよび関連代謝の新規利活用システムに関する研究）、照井賞（中島田豊氏：嫌気性菌のエネルギー代謝制御による有用物質の効率的生産）、生物工学アジア若手賞（Jitladda Sakdapipanich 氏：More value materials from natural rubber based on structural



授賞式（受賞の皆様）



展示会場

characterization studies), 論文賞5件(竹田昌史氏ら, 山田 翼氏ら, 道添純二氏ら, 伊藤武志氏ら, 岩瀬 哲氏ら)の各賞が授与された。授賞式のあと, 生物工学賞, 技術賞, 生物工学アジア若手賞の各受賞者による熱のこもった受賞講演が行われ, 聴衆から盛んな拍手がおくられていた。

大会3日目は, 再び会場を阪大豊中キャンパスに移し, 午前・午後(9:00~16:40)にかけて, 一般講演およびシンポジウム9テーマが行われた。午後からはシンポジウムのみが実施されたが, 小雨模様の天候の中, 最後まで熱心な議論が交わされていた。

以下に, 今大会に関する特記事項を示す。

- 1) 大会開催時期: 大学の施設を利用したことから, 夏休み期間の9月に実施することになった。昨年のつくば大会が11月中旬に開催されたことから, 今大会の講演登録締切りまで6ヶ月余りしかなかった。このことが, 一般講演件数が減少した一因とも考えられる。発表を予定する立場からすると, 大会開催時期はあまり変動しない方が望ましいと思われた。
- 2) シンポジウム: 多くのシンポジウムの申込みがあり, 実行委員会として採択の可否を決定するのに苦慮した。最終的には, 類似のテーマの統合をお願いするなどして18テーマとしたが例年より多い件数となった。一般講演との同時進行を極力避けるプログラム編成としたため, オーガナイザーの希望に沿えないスケジュールとなったものも多く, ご無理をお願いした。なお, 今大会ではオーガナイザーには実施報告書の提出をお願いしたので, 次回以降の参考になれば幸いである。
- 3) 年会名の表記: 過去の要旨集, 会告などで, 年会名表記の不統一が目立ったので, 今大会では, 「第58回日本生物工学会大会」あるいは「第58回日本生物工学会大会(2006)」のように表記することを理事会で認めていただいた。第〇回を冠することで, 大会の歴史の重みを再確認すると同時に, 100回, 200回と世代を継いで本大会が継続・発展するよう望みたい。
- 4) 授賞式: 例年大会初日の午前中にとり行われていた授賞式を, 今大会では, 2日目の夕刻に懇親会会場に隣接した会場で行うことにした。これは, できるだけ多くの皆様に授賞式へ出席いただき, 受賞された方々の功績を讃えていただきたいという方針からであった。お陰さまで, 授賞式には用意した椅子席に座わりきれないほどの参加者を得ることができた。
- 5) 懇親会: 2日目18:30より, 千里阪急ホテルにて懇親会を行った。招待者を含め約400名の参加を得て, ホテルの大きな会場でも狭く感じるほどの盛況ぶりであった。灘五郷酒造組合・伏見酒造組合のご厚意による樽酒の鏡割り・乾杯に続いて懇親を深める宴に入った。テーブルには, 灘・伏見の酒造メーカーやビール各社からご提供いただいたお酒, ビール, ウィスキーなどがふんだんに置かれ, 料理・飲物ともに不足することなく皆様にご満足いただけたものと思っている。展示会・若手会・懇親会用のソフトドリンク, 酒類などを, 合計48社からいただいた。厚くお礼申し上げます。

最後に, 改めて皆様のご協力に厚くお礼申し上げ, また, 広島での次年度大会にも変わわらないご支援をお願いし後記といたします。



懇親会(鏡割り)



懇親会(乾杯!)